

令和8年度 病害虫発生予察 注意報 第2号

令和8年5月21日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ベと病
- 2 対象作物 ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

- (1) 5月12～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：87.5% (平年：45.0%、前年：37.5%)
平均発病株率：33.0% (平年：11.5%、前年：15.5%)

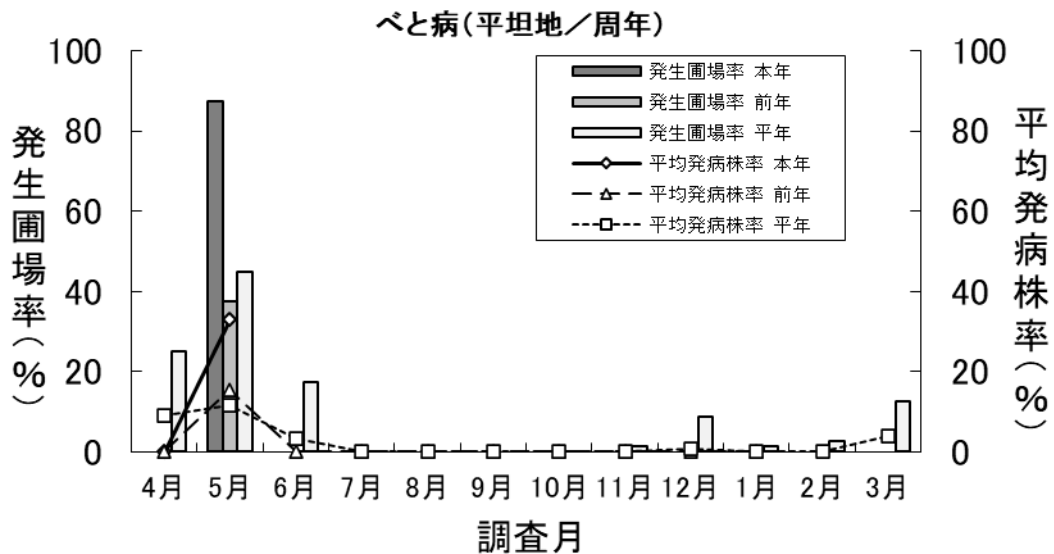


図1 病害虫発生予察巡回調査でのネギにおけるべと病の発生推移(平坦地)

- (2) 今年度は4月中下旬にかけてまとまった降雨が観測されたことから、本病の発生が助長された。
- (3) 九州北部地方の1ヶ月予報(5月14日福岡管区気象台発表)では、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予測されており、今後梅雨入り等で降雨が続いた場合にさらなる発生の助長が懸念される。

7 防除対策

- (1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があるため、発生に好適な気象条件（平均気温 13～20℃、降雨）が続くと急激にまん延するため、発病前の予防散布を行う。
- (2) 薬剤散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) 薬剤散布の際は、展着剤を加用し、株元にもしっかりと散布する。
- (4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/yasai.html>



病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>